

おか やま こう らく えん
岡山後樂園

きもっと知ろう!



たて もの
建物編

こうらくえん たてもの おちゃや
 後樂園の建物は「御茶屋」とよばれ、
 お茶会をする茶室とは少しちがいます。
 もちろん、茶の湯も楽しみましたが、
 ゆっくりとくつろいだり、勉強したり
 などいろいろな使い方をした建物です。
 また、建物そのものが庭の景色に
 こんでいます。



お殿さまが後樂園に来るとよく使っていた建物



1 えん よう てい
延養亭



2 かく めい かん
鶴鳴館

今の鶴鳴館は1949年に移築したものです。



3 えい しょう ま
栄唱の間



4 のう ぶ たい
能舞台



えい しょう ま ざ しき ない ぶ
栄唱の間 お座敷の内部



えい しょう ま のう ぶ たい み
栄唱の間から能舞台を見る



お庭の景色をながめたり、建物そのものが景色のようにになっているもの



5 かん すい さい きやう けん
寒翠細響軒



6 も しやう あん
茂松庵



7 れん ち けん
廉池軒



8 りゅう てん
流店



9 しん でん
新殿



10 しま ちゃ や
島茶屋

馬場や弓場などお殿さまが武士として必要な武芸のけいこをする場所にある建物



11 かん しゃ てい しゃじやう(いば)
観射亭と射場



12 かん き てい
観騎亭

腰かけで休憩に使える建物



13 ご じゅう さん づぎ こし かけ ちゃ や
五十三次腰掛茶屋



14 ゆい しん どう
唯心堂

移築された建物



15 ちゃ そどう
茶祖堂

建物だけでなく、建物からながめる景色や前面にひろがる景色に注目しよう!



岡山後樂園

きもっと知ろう!

建物編



後樂園の建物は、水害や戦災のあとに江戸時代の絵図や古い写真にもとづいて改築や復元、あるいは移築(後樂園のものではない建物をよそから移すこと)したものです。300年の間ずっとつたわった建物はありますが、江戸時代とほぼ同じ位置に受け継がれています。

お殿さまが後樂園に来たときに使った建物のほか、神仏をまつた建物もあります。また、時代ごとに数がふえたり、位置や名前が変わったりしたものもあります。



豆知識 B

お殿さまのいのりの場

後樂園には慈眼堂をはじめ稲荷宮や弁財天堂など、いのりの場があります。これらは、池田家のお殿さまが大切にしていた仏さまや神さまをまつた場所です。たとえば、参勤交代で江戸(今の東京)に行くときや岡山に帰って来たときは必ずお参りをしました。



千入の森のむかい側



二色が岡の中

豆知識 A

花葉軒(茂松庵) 建物の周囲の景色にちなんだ名前

江戸時代には、茂松庵は花葉軒とよばれていました。それは、建物の周囲が春は花(主に山桜)、秋はそれらが紅葉になることから、花と葉のいろどりやその変化を楽しむ林の二色が岡だったからです。延養亭や栄唱の間からも二色が岡のようすはながめられますが、二色が岡の中で、美しくいどられた林をより近くで楽しむための建物でした。

江戸時代がおわるころには、山桜は枯れ、松とカエデだけが残っていたようです。明治になり、茂松庵と名前が変わりました。

300年前の絵図に描かれた二色が岡のようす



白い点とその先が紅く描かれた木々が山桜で、白い点の先が緑色の木々は彼岸桜のようです。このほかに、八重桜も植えられていました。また、桜のほかに、松やカエデも植えられていました。お殿さまは季節ごとに変化する林のようすをながめて楽しんでいました。

豆知識 C

建物からながめる景色



延養亭の中から見た景色

園外の山々がまるで後樂園の景色のように見える工夫を借景といいます。この景色を守る条例もあります。

延養亭特別公開は5月と10月



廉池軒の中から見た景色

廉池軒前の池からひょうたん池と唯心山のふもとに水がわかれてながれていくようすがわかります。



五十三次腰掛茶屋の子ばから見た景色

沢の池のむこうの廉池軒と岡山城が一体となり、より美しく見えます。城の庭としての風格があります。